第1回

日　時		平成17年7月14日（木）　14：00～16：00
場　所		県庁4階41会議室
出席者	（委員）	吉田委員（委員長）、国分委員、桜井委員、西委員、谷田委員、佐野委員、藤尾委員、菊地委員、上森委員、三上委員（全員出席）
	（事務局）	瓜生医大・病院課長、中川課長補佐、他課員
内　容		三上健康安全局長挨拶、吉田委員を委員長に選出

主な発言

・県立病院ブランドの再構築が必要。
・県立病院グループとして経営を考えるべき。
・市町村病院や民間病院に対し、コーディネイト、サポート、リードする機能を明確に。
・県立病院が提供している医療サービスを県民に説明し、県民一人あたりの繰入金が適当か判断してもらううべき。
・県立病院が持つ強みを表現することが大切。
・県立病院が目指す医療の実現のために必要な人員、コストを示すべき。
・県立病院は民間に比べて、事務系職員が多いのでは。
・患者満足度、知名度を上げ、職員の士気を高め、収益を上げる仕組みを作る。
・経営改善で病院運営がよくなっても、住民が喜んでいるかについても考慮すべき。
・小児医療や周産期医療の利用者の情報、医療スタッフの声を届けたい。
・3病院とも総合病院の形で運営してきたが、今後は特色ある病院への改革が必要。
・競争力のある経営形態について検討すべき。
・経営改善の成果は数字に表れている。診療単価も民間に比べて高く、どう支出を抑えるかがポイント。
・よい医療を県民に提供するためには、経営の確立が必要。
・県立病院に共通するミッションが必要ではないか。
・地域医療の不足を補う役割から、政策医療の提供など、時代にあった役割に転換すべき。
・病診連携、病病連携はもっと進めるべきであるが、公的病院同士の連携が遅れているのでは。
・住民のニーズも大切であるが、親の都合で夜間・休日診療を利用している実態が あるなど、住民の意識改革も必要ではないか。
・小児科医、産科医が少なくなっている現状のなか、住民ニーズに応えるためには診療科の集約化も検討する必要がある。
・次回は、まず、今後の県立病院の役割について議論し、それを達成するための方策をついて検討することとしたい。